

スーツほど堅苦しくなく、仕事着として許される程度に気軽な服装「ビジネスカジュアル」が、岡山県内の企業で広がっている。社員は「働きやすい」、顧客からも「親しみやす

「働きやすい」「親しみやすい」

岡山県内

いなどと評判は上々。県内の紳士服店は、新型コロナウイルス禍によるテレワークの普及で需要が伸びているとみて、売り込みを強化している。(伊東圭一、大江恵里奈、鈴木省吾)

プロパンガス販売などのつばめガス(岡山市南区福田)は昨年7月、働きやすい環境づくりの一環として全社で始めた。従来は男女共にスーツや作業着を義務付けていたが、現在は営業や工事で戸別訪問する社員を除き、半数以上がノーネクタイにセーターやブラウス姿などで業務に当たっている。

「スーツより動きやすく快適。お客さまに親しみを持ってもらえ、カジュアルな服装が会話のきっかけにもなる」とシヨールム担当の大崎里穂さん。採用活動でも自由度の高い働き方をPRしており、学生の受けは良いという。

各社によると、ビジネスカジュアルは政府によるクールビズの呼び掛け(2005年)を機に、環境意識の高まりや働き方改革と相

ビジネスカジュアル好評

まって徐々に浸透。昨年来 範囲内で取り入れている。のコロナ禍で普及が加速し 同グループは「ストレスたという。軽減に加え、服装への固定観念を無くすことで柔軟な

両備グループ(同市北区 錦町)も昨年7月に導入。テレワーク中もスーツ姿の社員が多かったため「ドレスコードフリー」と銘打ち、

その場に合う服装を認め、制服が必須な職場を除き、導入するか検討する。

ば、8割程度が実践。フォーマルな印象が強いバスやタクシーの運転手も、会社が配るポロシャツなど一定の



ビジネスカジュアルを導入し、セーターやブラウス姿で業務するつばめガスの社員

テレワークで需要拡大 紳士服店強化

は、カジュアル衣料の販売に力を入れている。

はるやま岡山青江本店(岡山市北区青江)は昨年、入り口近くにコーナーを開

設。デニムやコーデロイの生地を使ったり、格子やストライプの柄が入ったりと、多彩な素材や色柄のジャケットやズボンを並べる。三代木孝輔店長は「スーツより価格が安く、まとめ買いする人もいる。着こなしの問い合わせもあり、ニーズがカジュアルに移っていることを実感する」と話す。

青山商事は昨秋、着こなしに迷う顧客向けにガイドラインを作り、フォーマル度を5段階に分けてコーディネートを紹介。店舗やホームページに掲載するとともに、接客時に職場の雰囲気や働き方に適した服装を提案している。



コーデロイやデニム生地のジャケットなどが並ぶはるやま岡山青江本店

キニナル
わんせ